

図 17

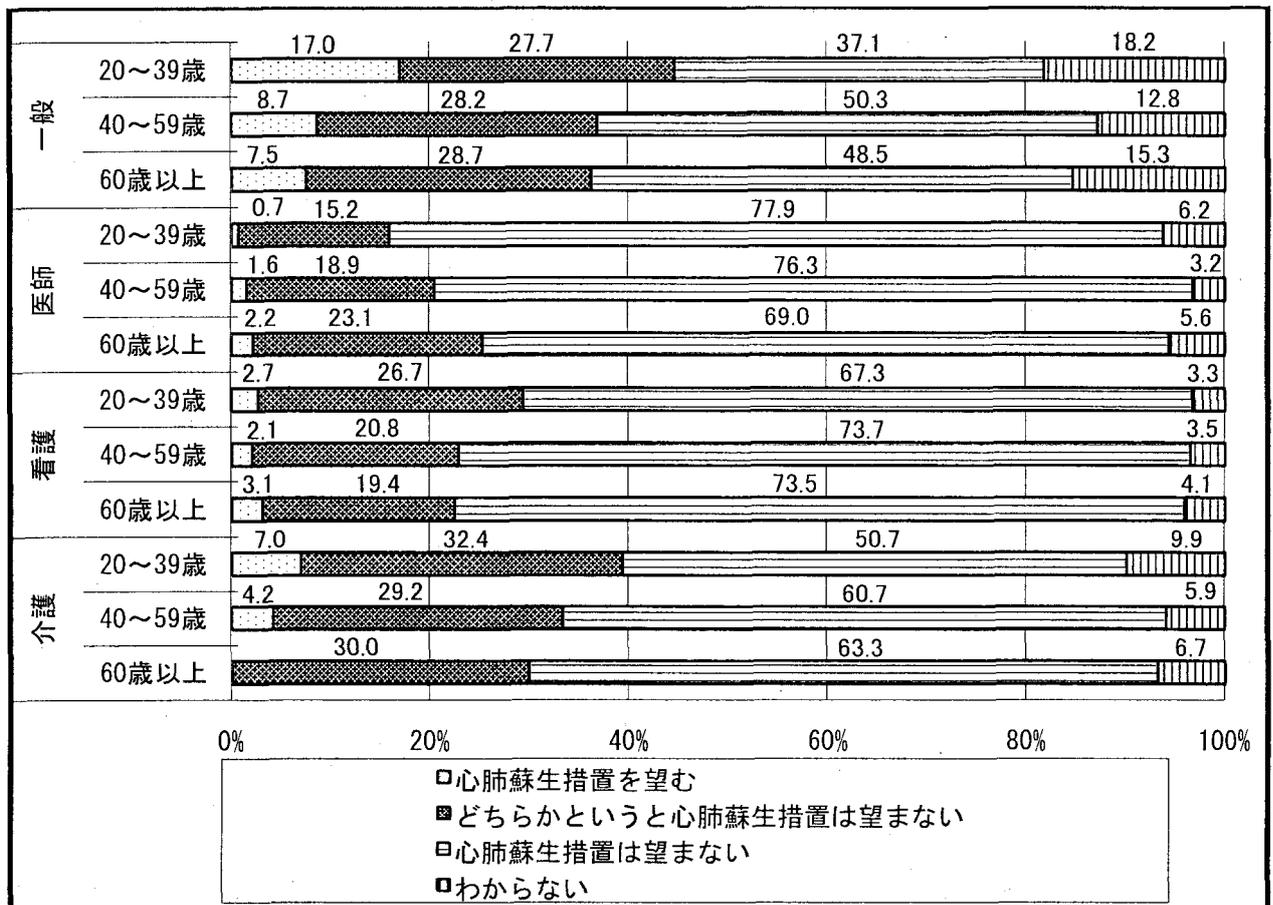


図 18

【問9 自分が治る見込みがなく死期が迫っている（6ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定）と告げられた場合の延命医療について】

一般国民及び医療福祉従事者ともに、延命医療に対して消極的な回答（「どちらかというとな望まない」、「望まない」）をした者の割合が多かった（図19）。

また、延命医療について家族と話し合いをしている者の方が、話し合いをしていない者よりも延命医療に消極的な回答をした者の割合が多かった（図20）。年代別では、一定の傾向は見られなかった（図21）。

なお、今回は「どうすべきか」という客観的な意見を質問したのに対し、今回は「自分ならどうするか」と質問したため、前回との比較は困難である。

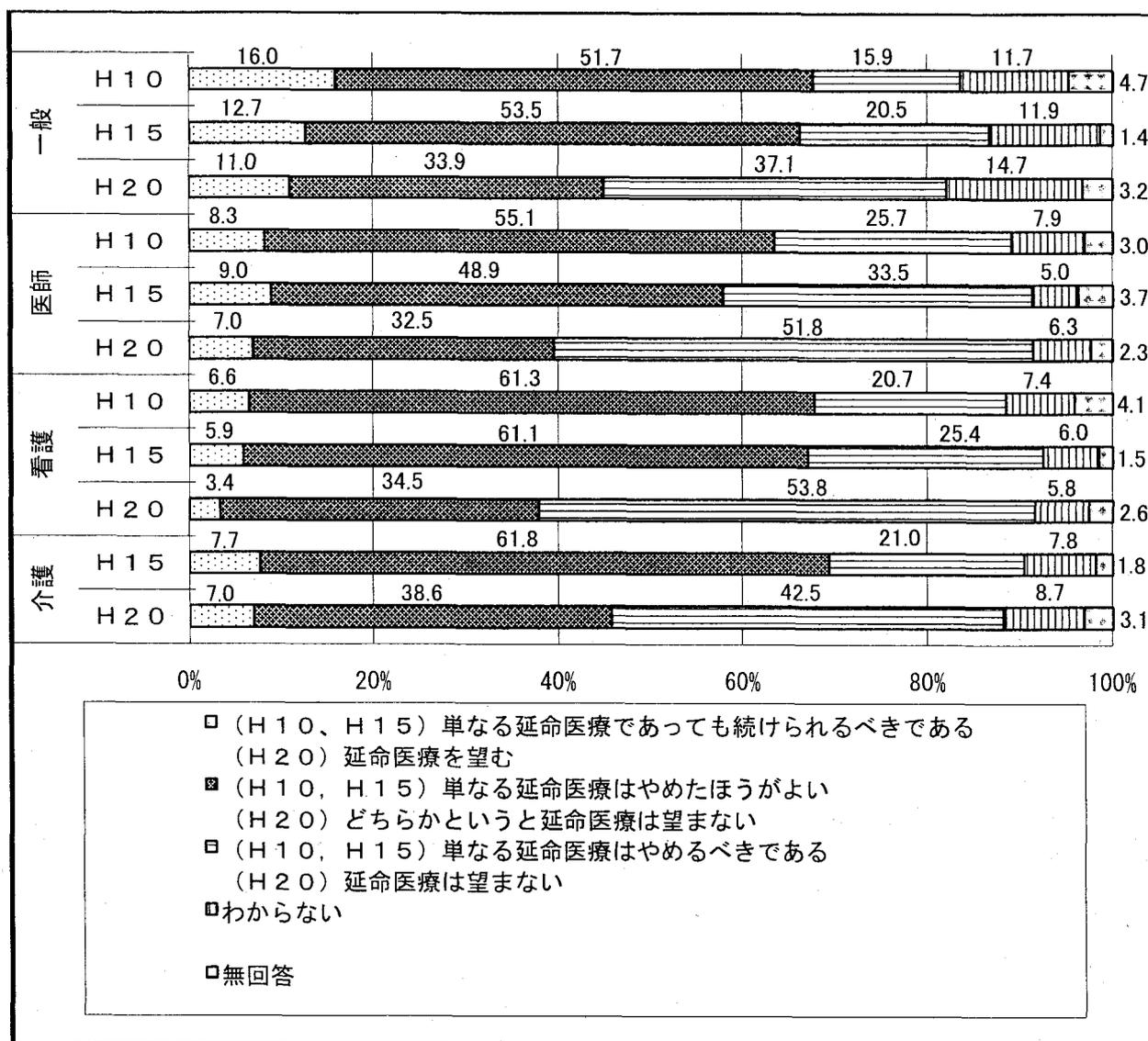


図 19

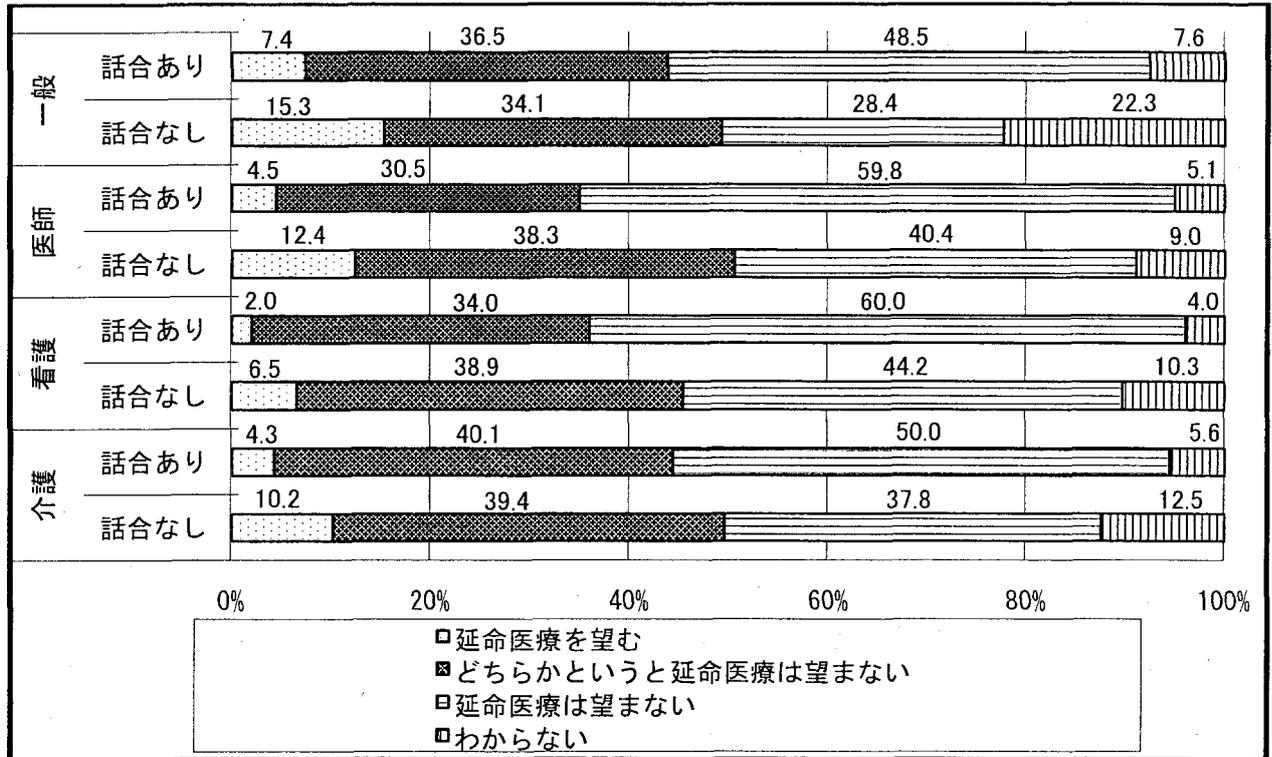


図 20

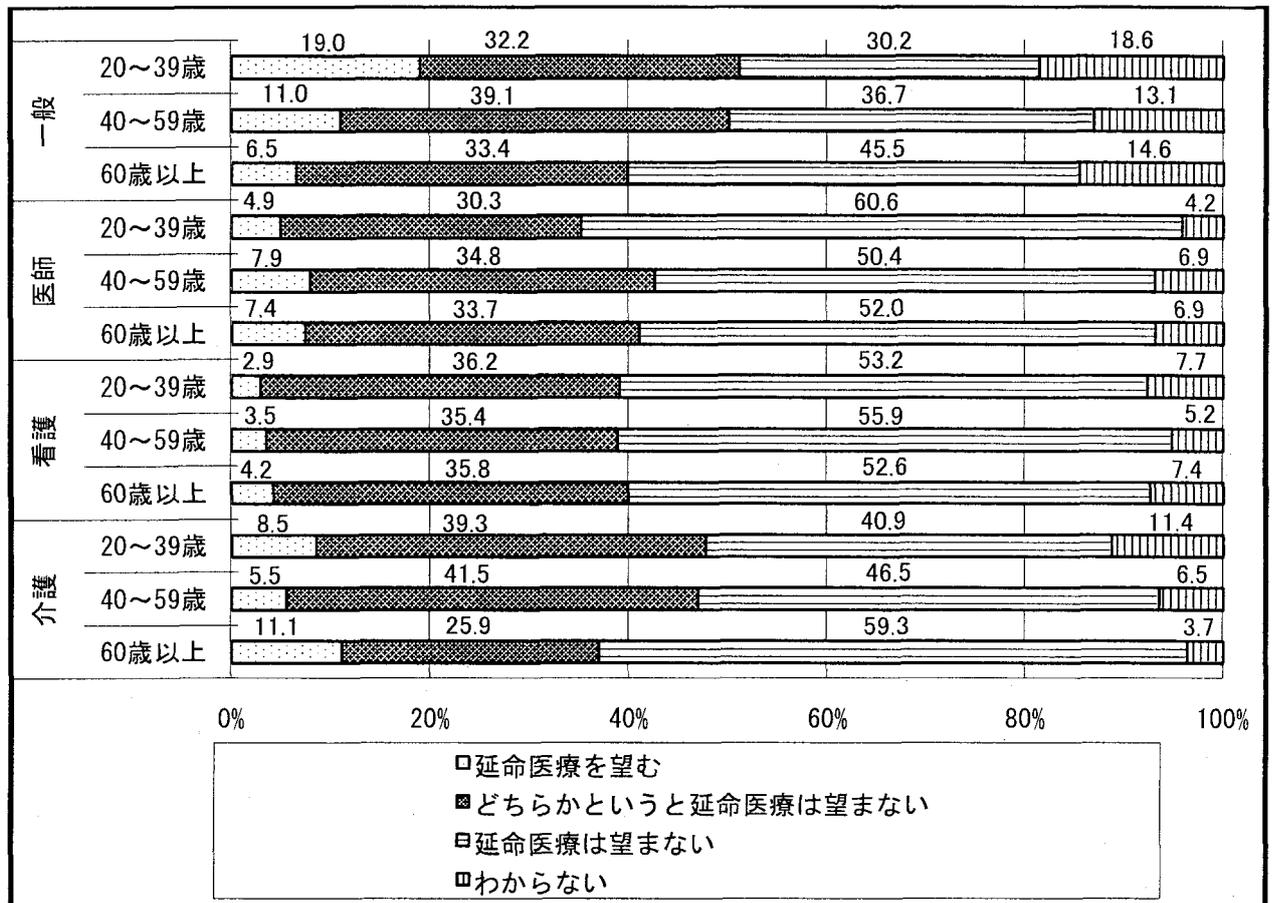


図 21

【問 10 自分が突然重い病気や不慮の事故などで、適切な医療の継続にもかかわらず治る見込みがなく死が間近に迫っていると告げられた場合、具体的にどのような治療の中止を望むか（問 9 で「どちらか」というと延命医療は望まない」「延命医療は望まない」と回答した者を対象）】

一般国民及び医療福祉従事者ともに「人工呼吸器等、生命の維持のために特別に用いられる治療まで中止」と回答した者の割合が最も多かった。「胃ろうや中心静脈栄養などによる栄養補給まで中止」と回答した者の割合は、一般国民よりも医療福祉従事者の方が多かった。また「点滴の水分補給など、一切の治療を中止」と回答した者の割合は、一般国民よりも医療福祉従事者の方が少なかった（図 2 2）。

延命医療について家族と話し合いをしていない者の方が、話し合いをしている者よりも「わからない」と回答した者の割合が多かった（図 2 3）。年代別では、一定の傾向は見られなかった（図 2 4）。

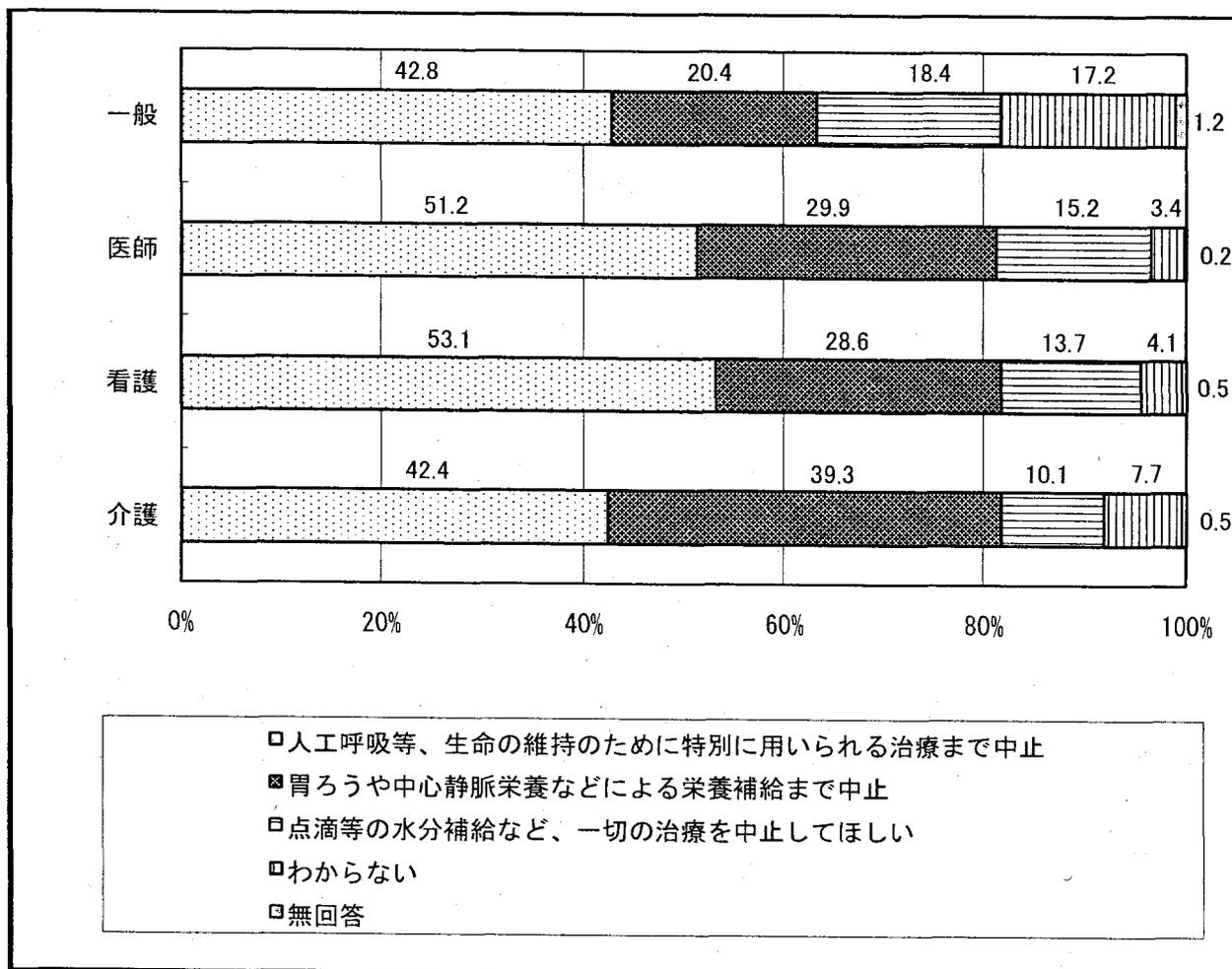


図 22

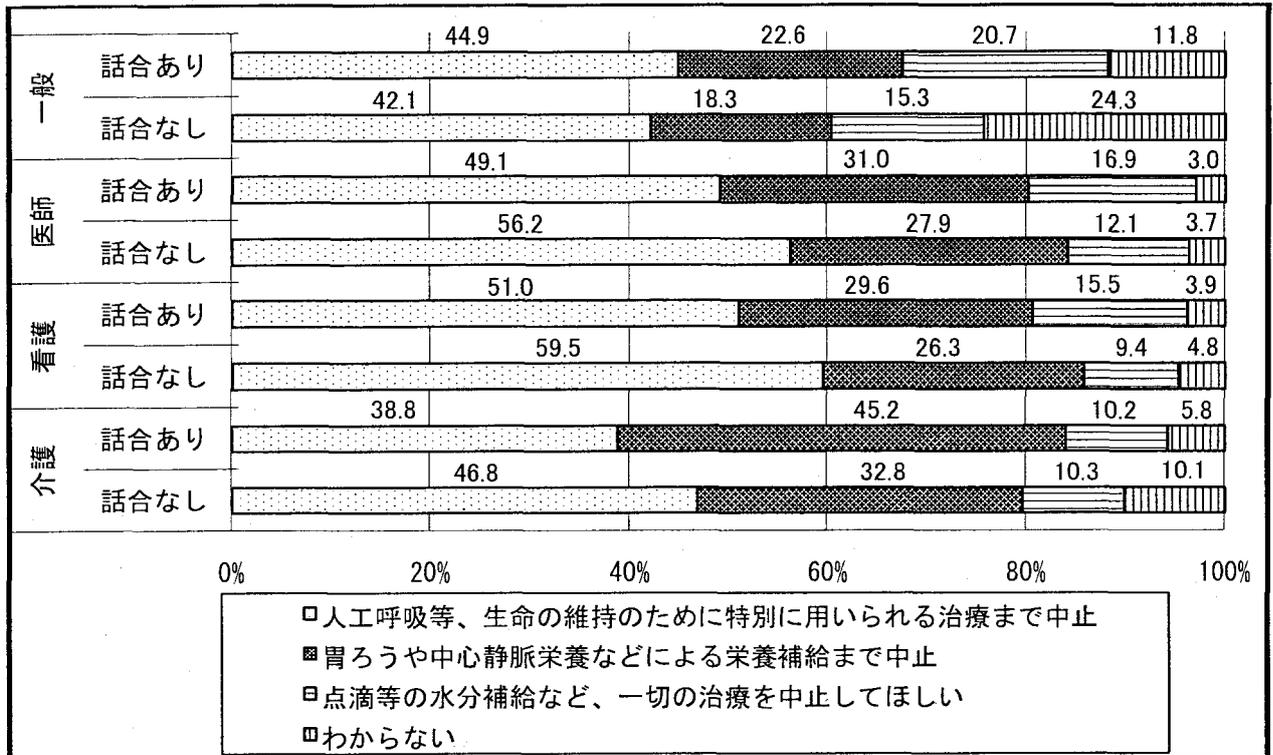


図 23

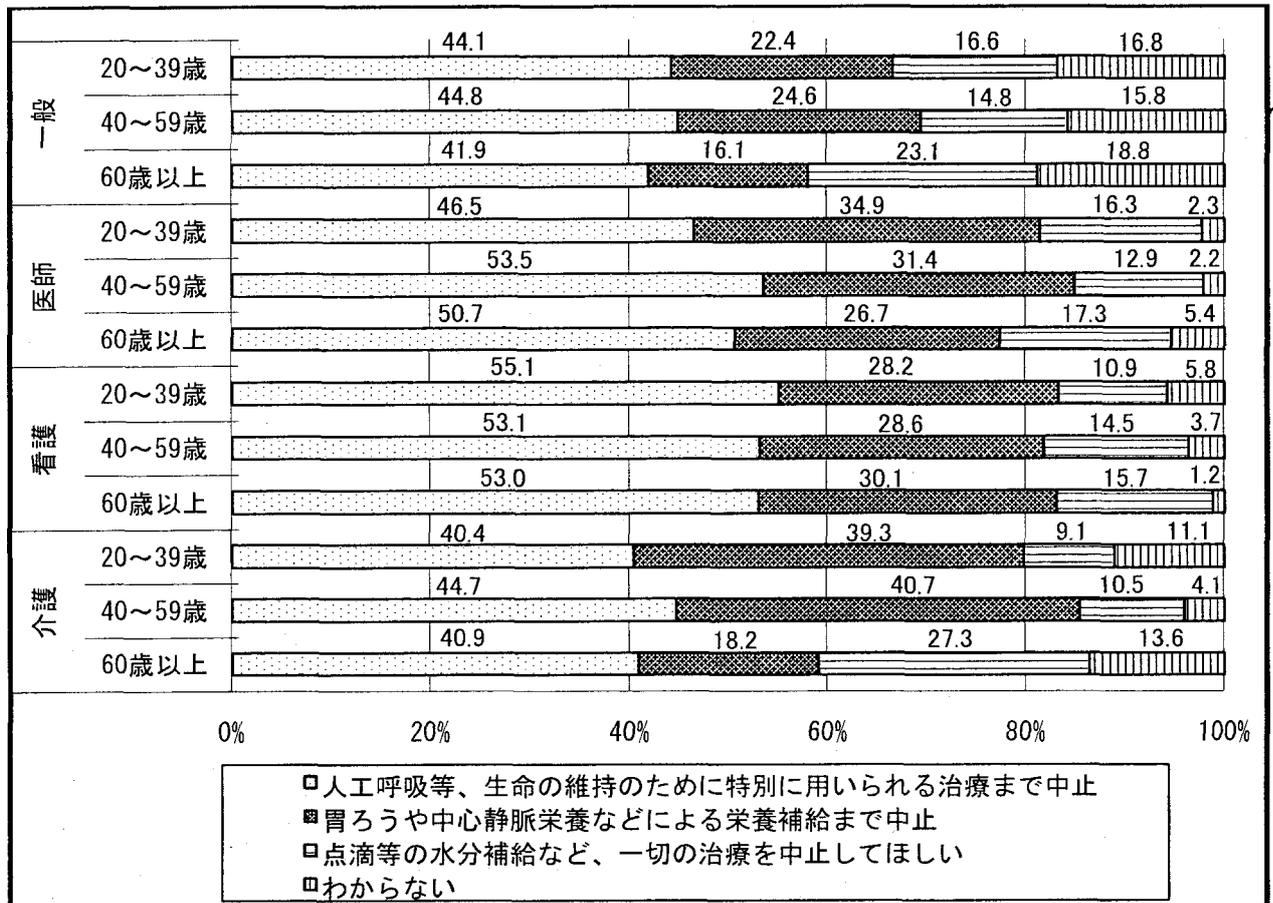


図 24

【問 11 自分が突然重い病気や不慮の事故などで、適切な医療の継続にもかかわらず治る見込みがなく死が間近に迫っていると告げられた場合、具体的にどのような医療・ケア方法を望むか（問 9 で「どちらかというとな延命医療は望まない」「延命医療は望まない」と回答した者を対象）】

一般国民及び医療福祉従事者ともに「痛みをはじめとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点をおく方法」と回答した者の割合が、前回に比べて減少しているものの、最も多かった。

また、前回と比べると「延命医療を中止して、自然に死期を迎えさせるような方法」と回答した者の割合が増え、「医師によって積極的な方法で生命を短縮させるような方法」と回答した者は減少している（図 25）。

また、延命医療について家族との話し合いの有無や年代別では、一定の傾向は見られなかった（図 26・図 27）。

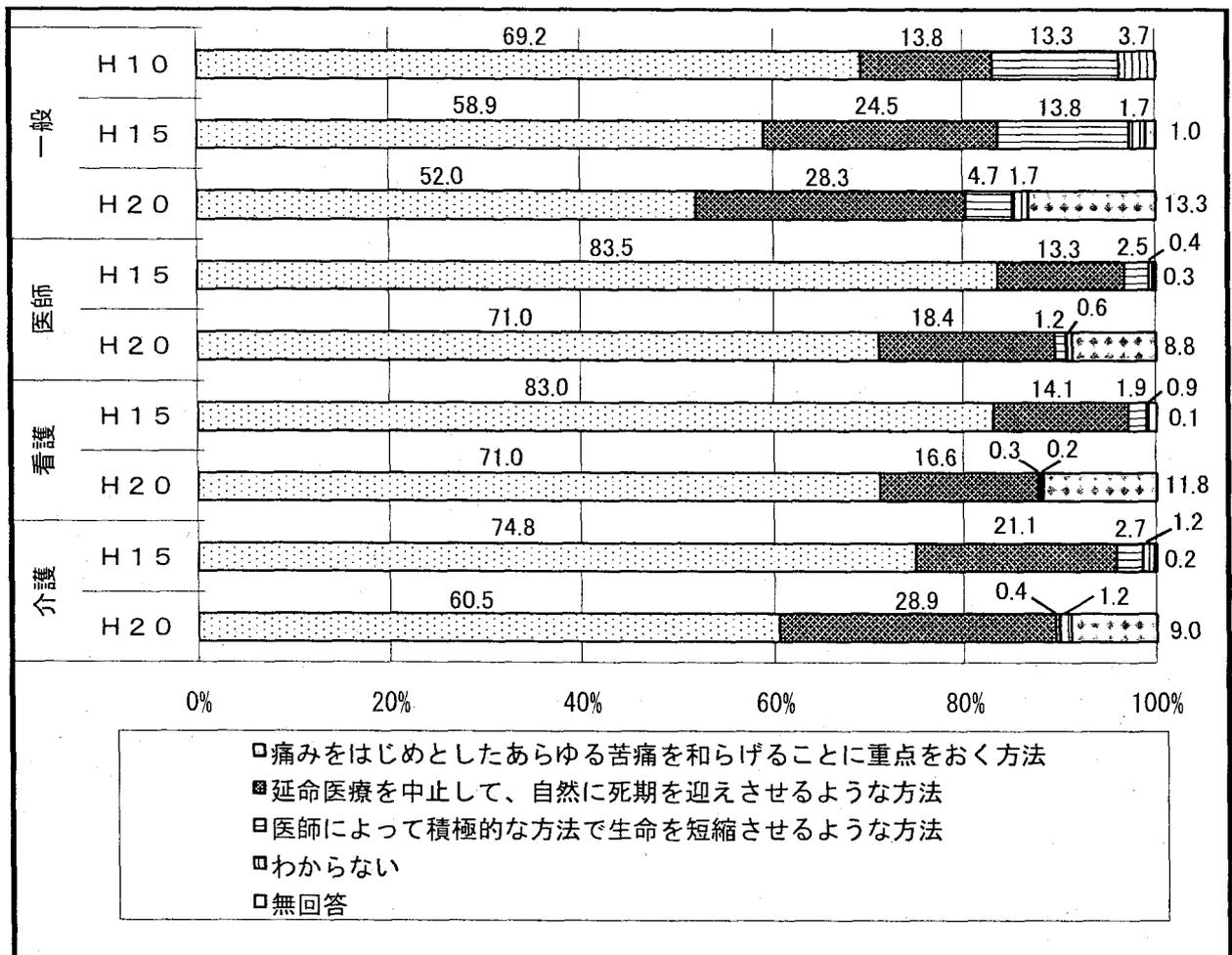


図 25

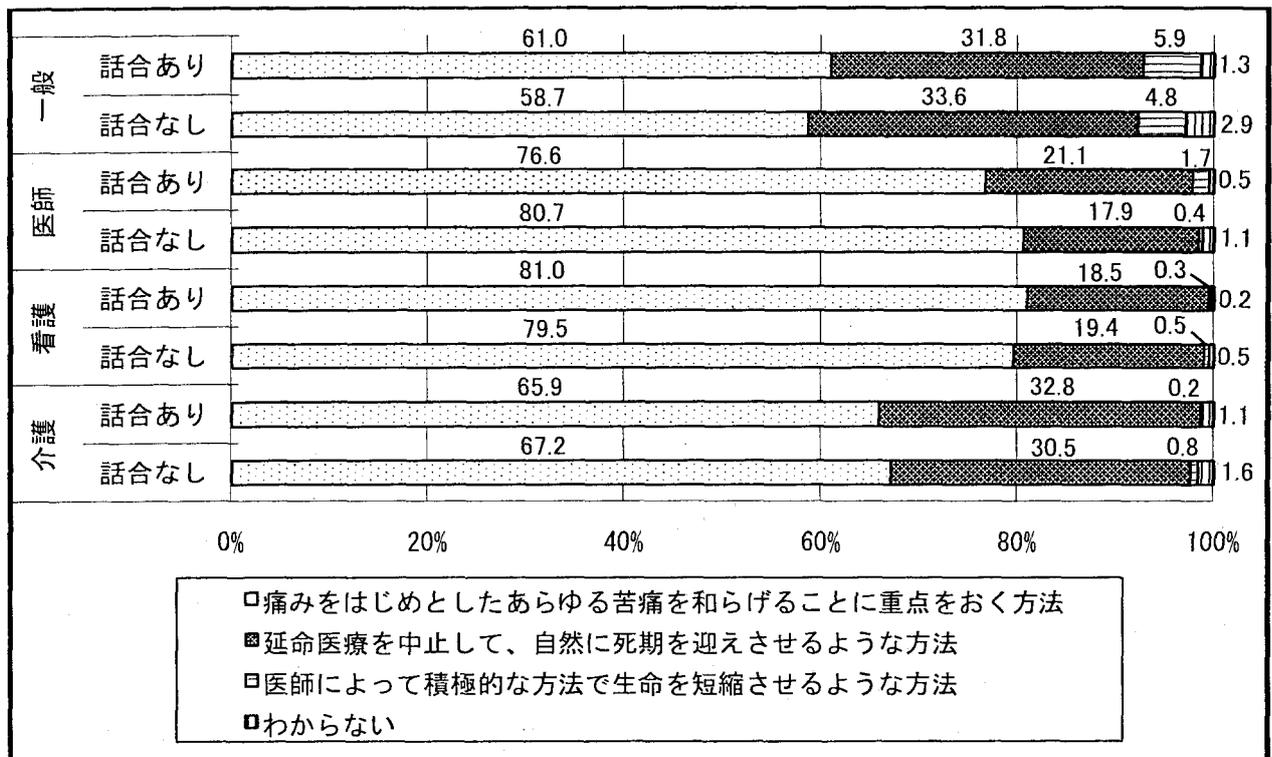


図 26

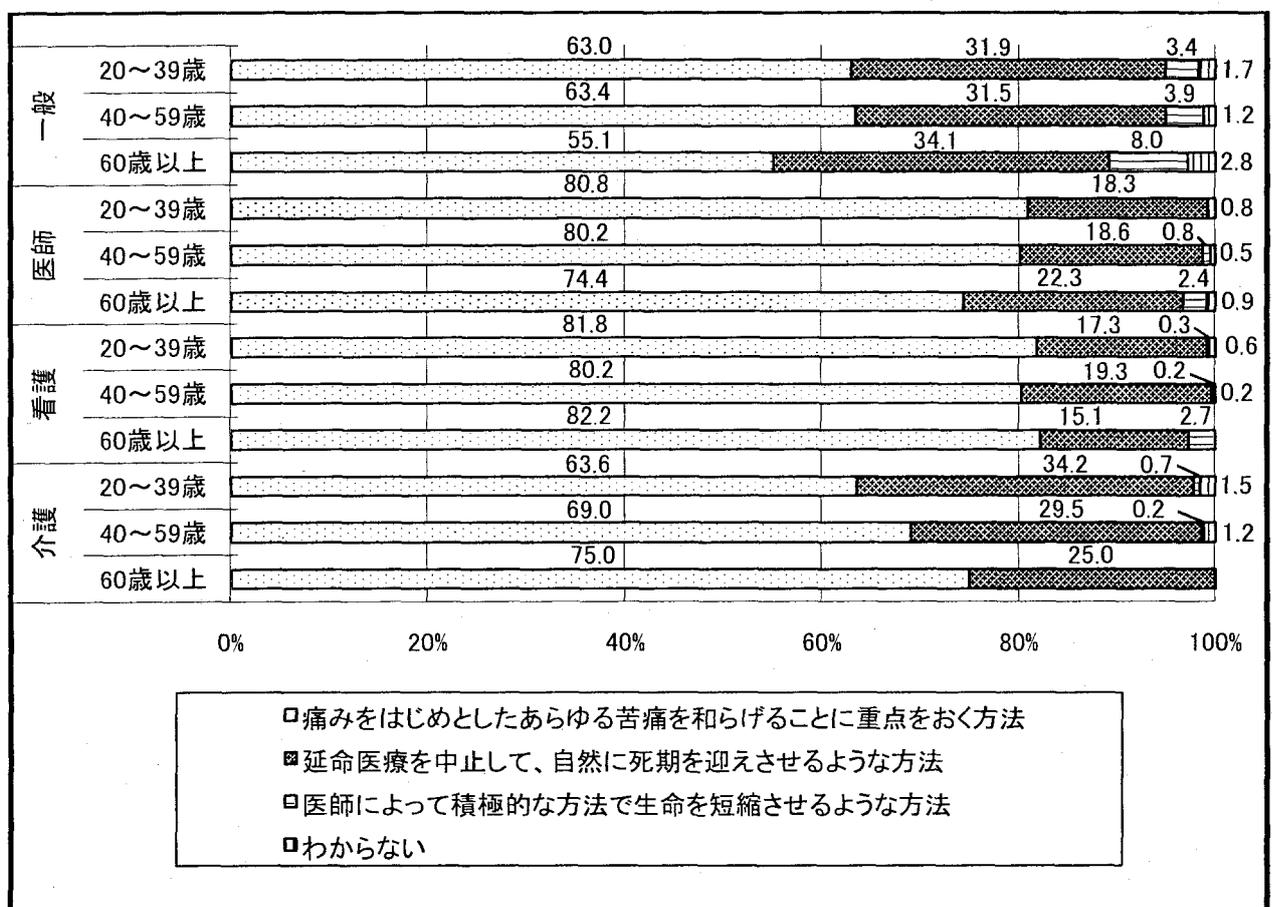


図 27

【問 12 自分が突然重い病気や不慮の事故などで、適切な医療の継続にもかかわらず治る見込みがなく死が間近に迫っていると告げられた場合、医師によって積極的な方法で生命を短縮させるような方法をとるときの条件（問 11 で「医師によって積極的な方法で生命を短縮させるような方法」と回答した者を対象）】

回答者数が少ないため、一定の傾向を見出すことは困難であるが、一般国民では「死期が迫っていること」、「患者の痛みが甚だしいこと」と回答した者の割合が多かった（図 28）。

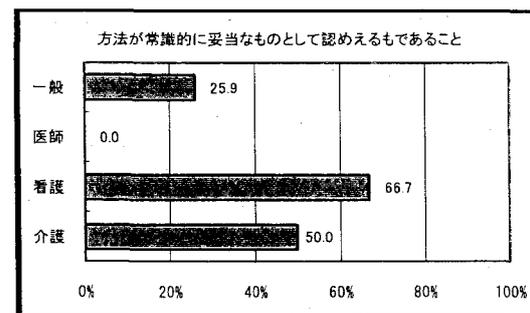
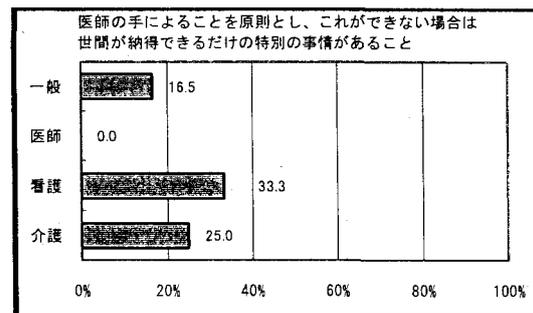
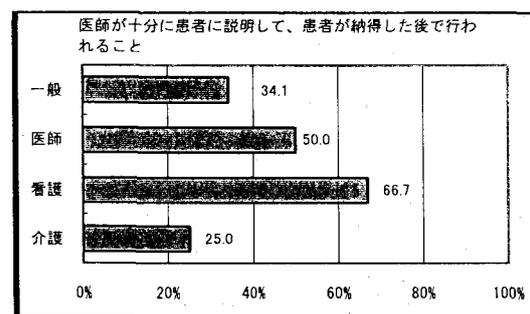
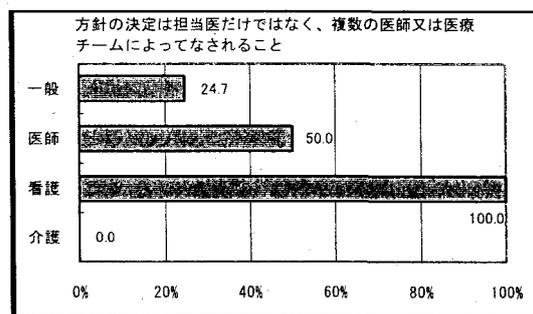
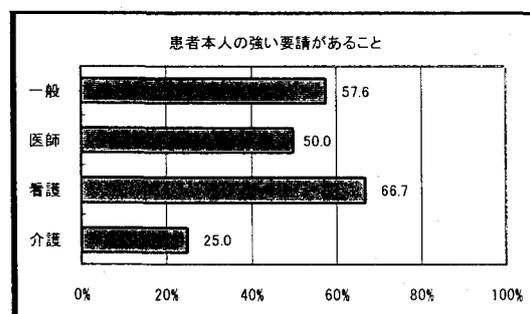
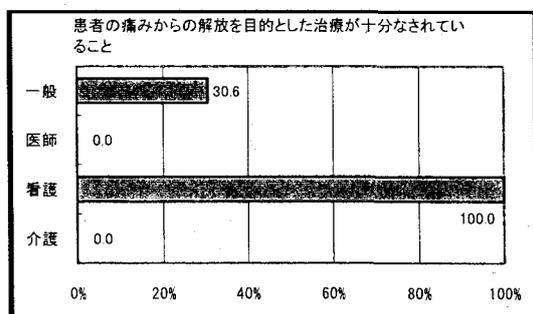
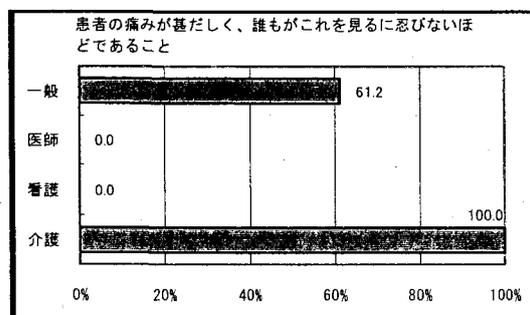
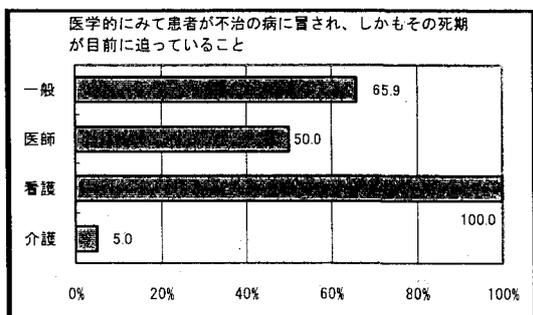


図 28

【問13 自分の家族が治る見込みがなく死期が迫っている(6カ月程度あるいはそれより短い期間を想定)と告げられた場合の延命医療について】

一般国民及び医療福祉従事者ともに、延命医療に対して消極的な回答(「どちらかというとならない」、「望まない」)をした者の割合が多かった(図29)。

また、延命医療について家族と話し合いをしている者の方が、話し合いをしていない者よりも延命医療に消極的な回答をした者の割合が多かった(図30)。年代別では、一定の傾向は見られなかった(図31)。

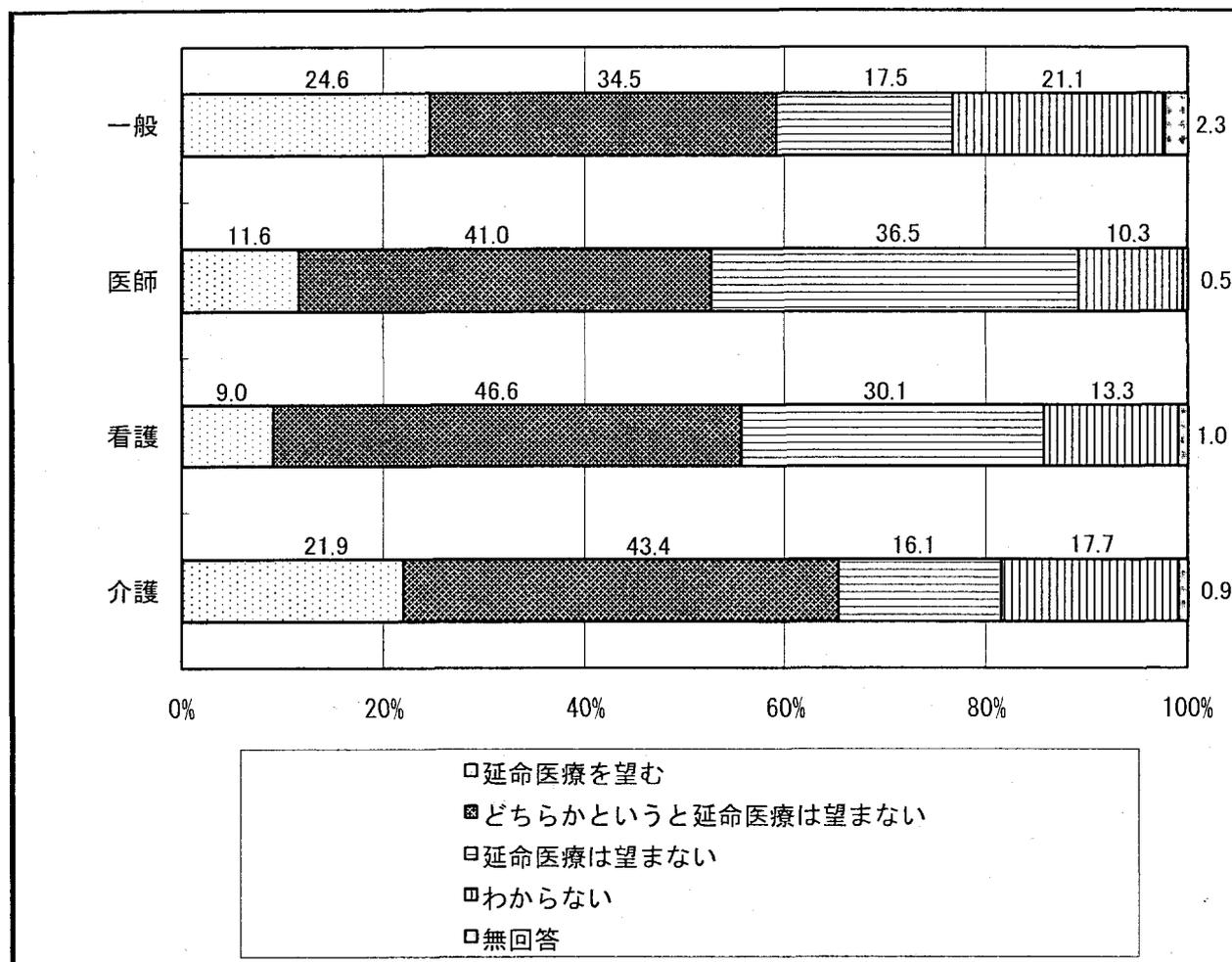


図 29

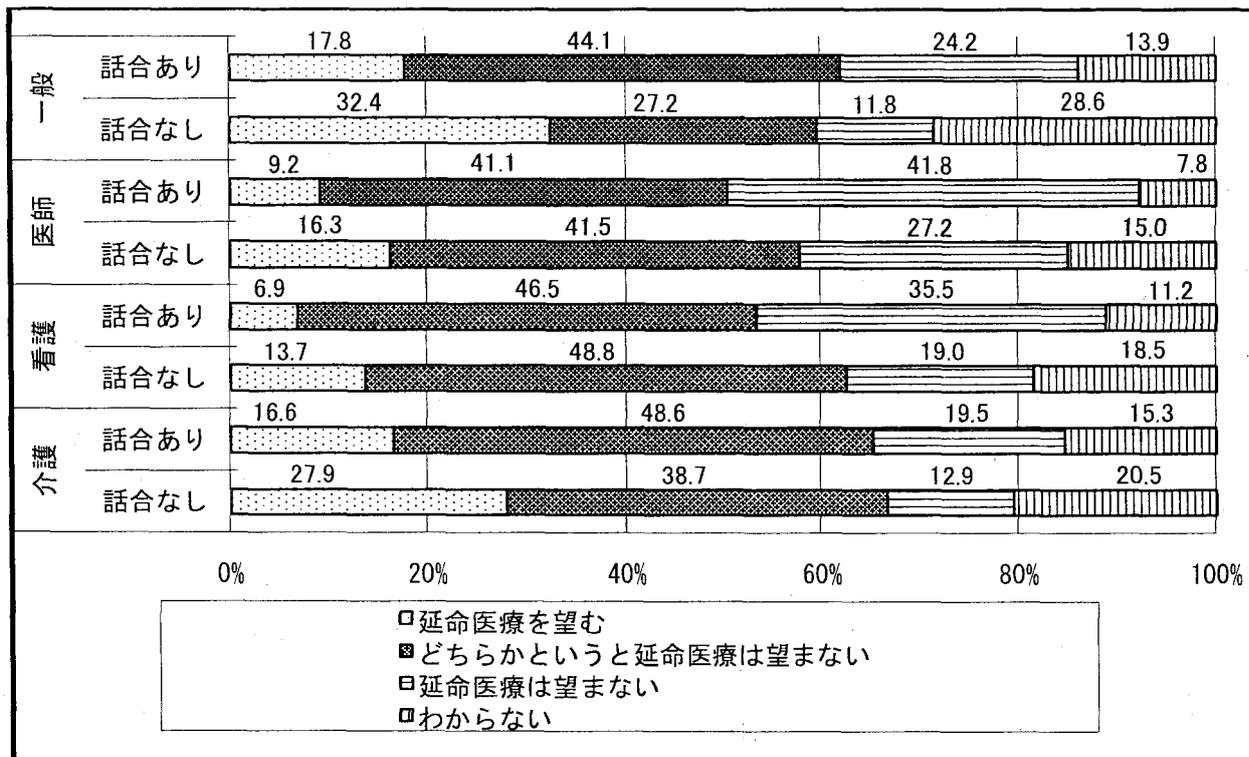


図 30

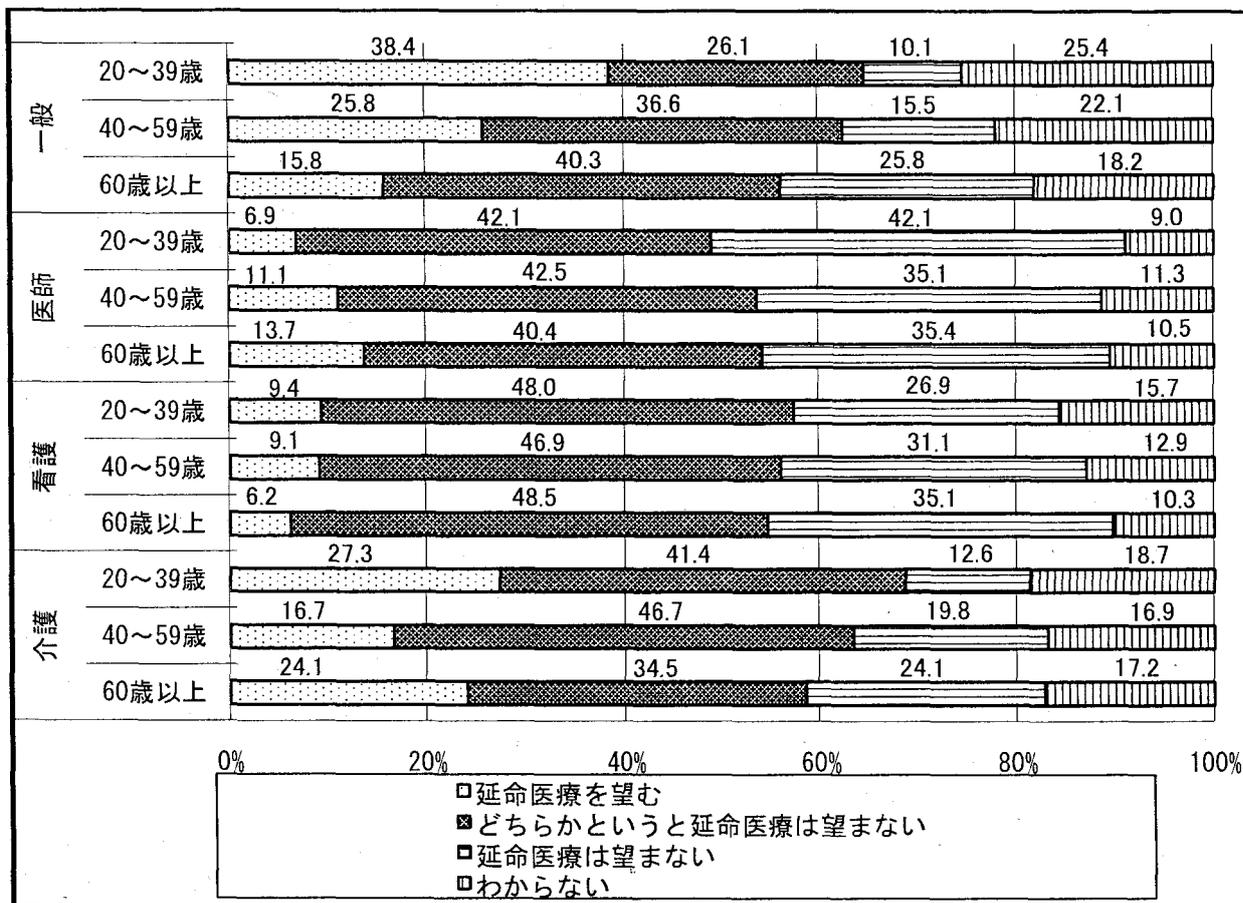


図 31

【問14 自分の家族が治る見込みがなく死期が迫っている(6カ月程度あるいはそれより短い期間を想定)と告げられた場合具体的にどのような治療の中止を望むか(問13で「どちらかというとな延命医療は望まない」「延命医療は望まない」と回答した者を対象)】

一般国民及び医療福祉従事者ともに「人工呼吸器等、生命の維持のために特別に用いられる治療まで中止」と回答した者の割合が最も多かった(図32)。

また、延命医療について家族との話し合いの有無や年代別では、一定の傾向は見られなかった(図33・図34)。

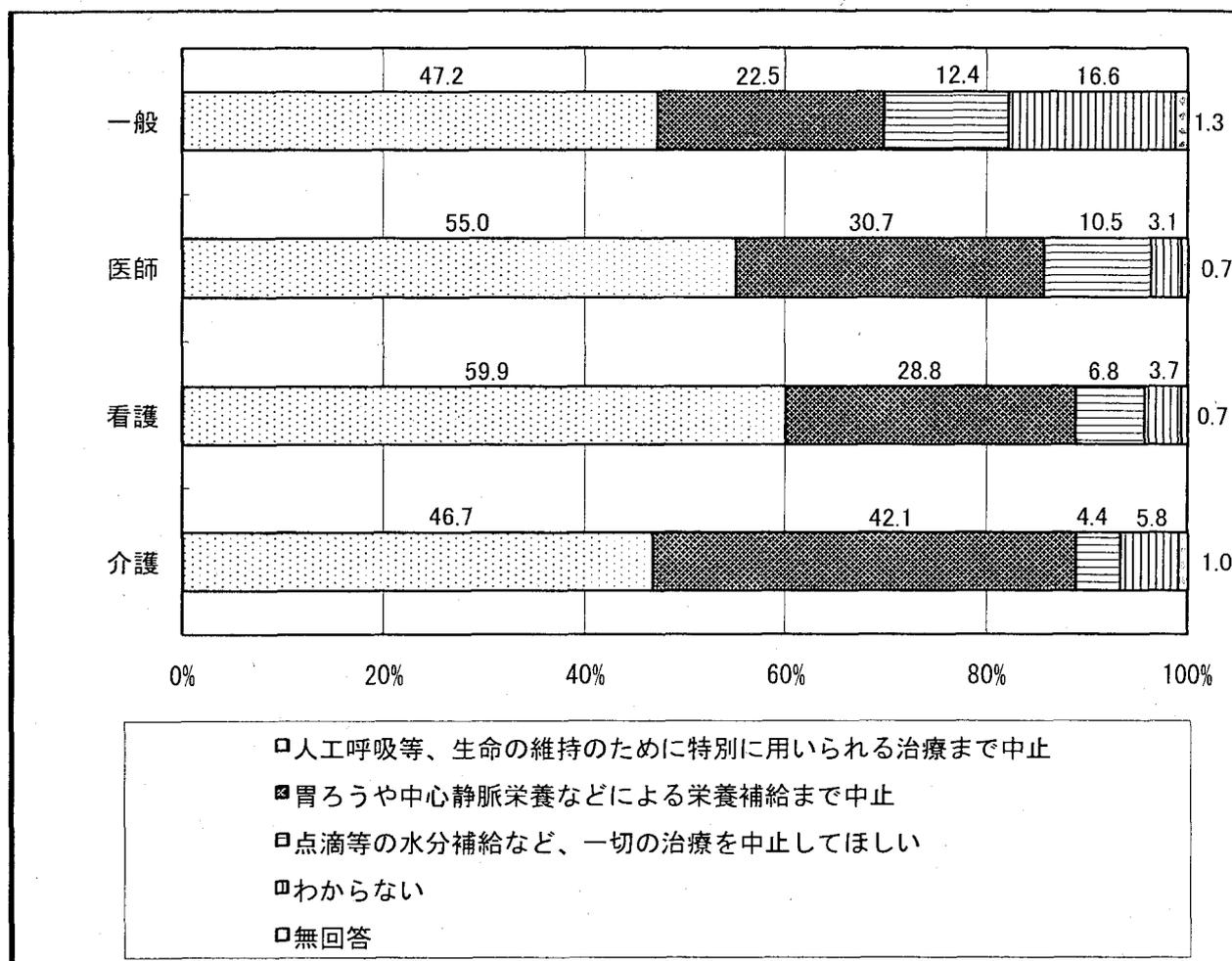


図 32

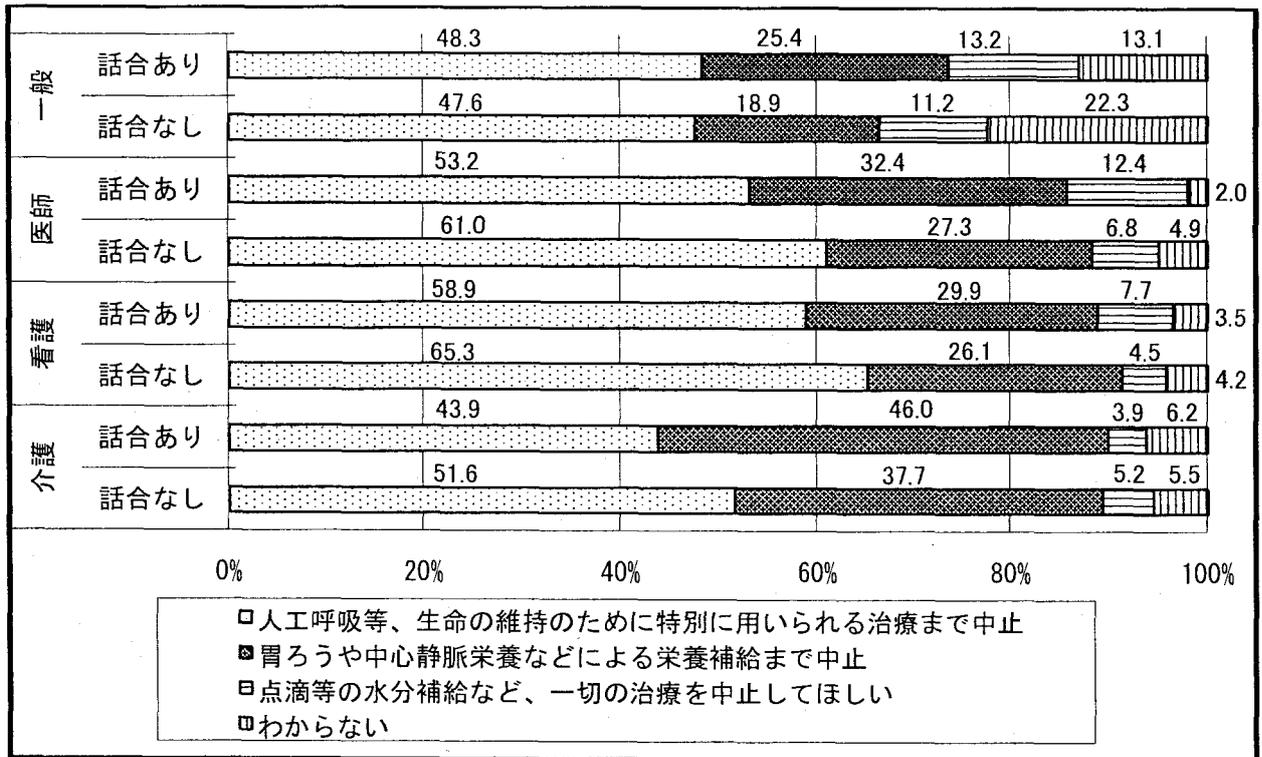


図 33

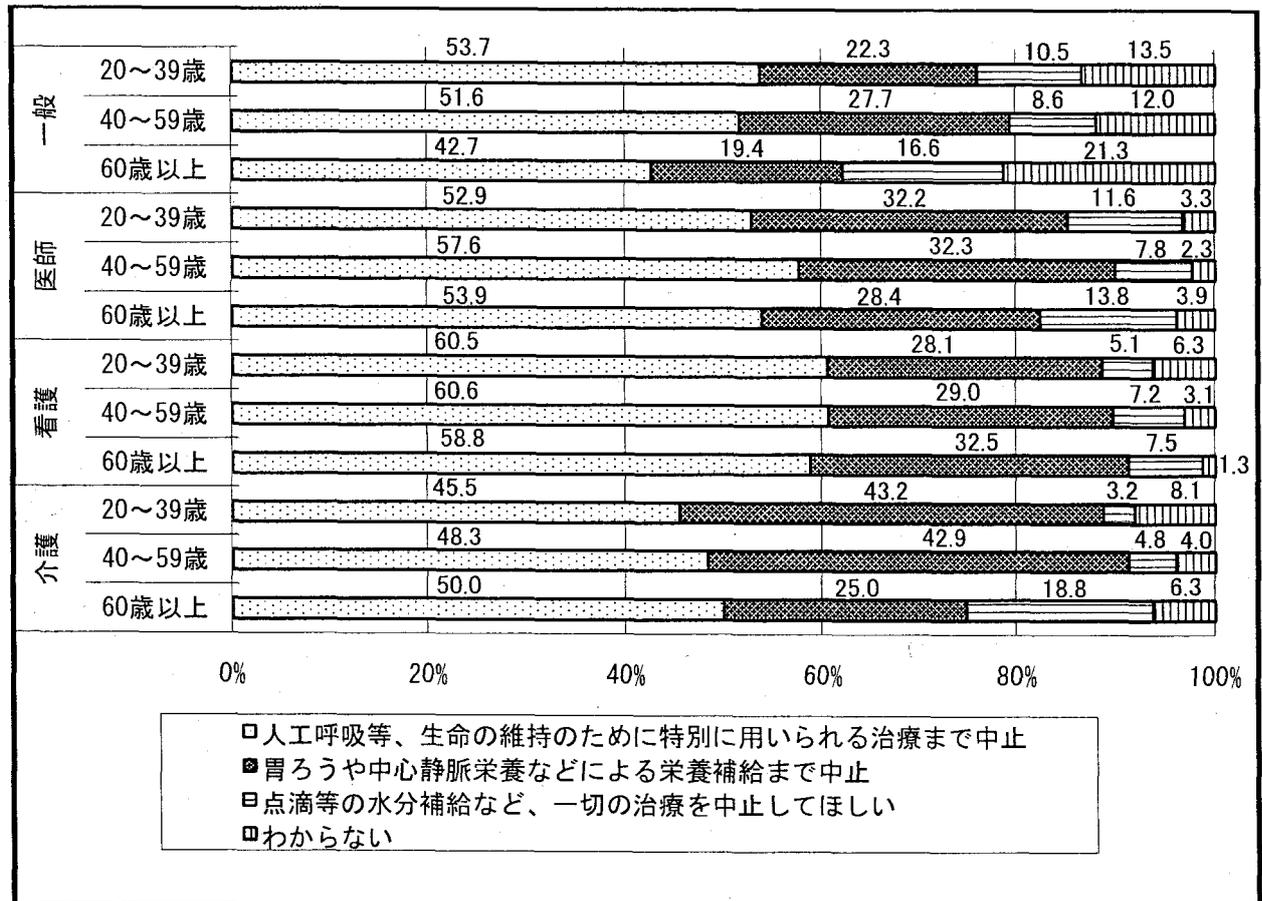


図 34

【問15 自分の家族が治る見込みがなく死期が迫っている(6カ月程度あるいはそれより短い期間を想定)と告げられた場合、具体的にどのような医療・ケア方法を望むか(問13で「どちらかというとな延命医療は望まない」「延命医療は望まない」と回答した者を対象)】

一般国民及び医療福祉従事者ともに「痛みをはじめとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点をおく方法」と回答した者の割合が最も多かった(図35)。
また、延命医療について家族との話し合いの有無や年代別では、一定の傾向は見られなかった(図36・図37)。

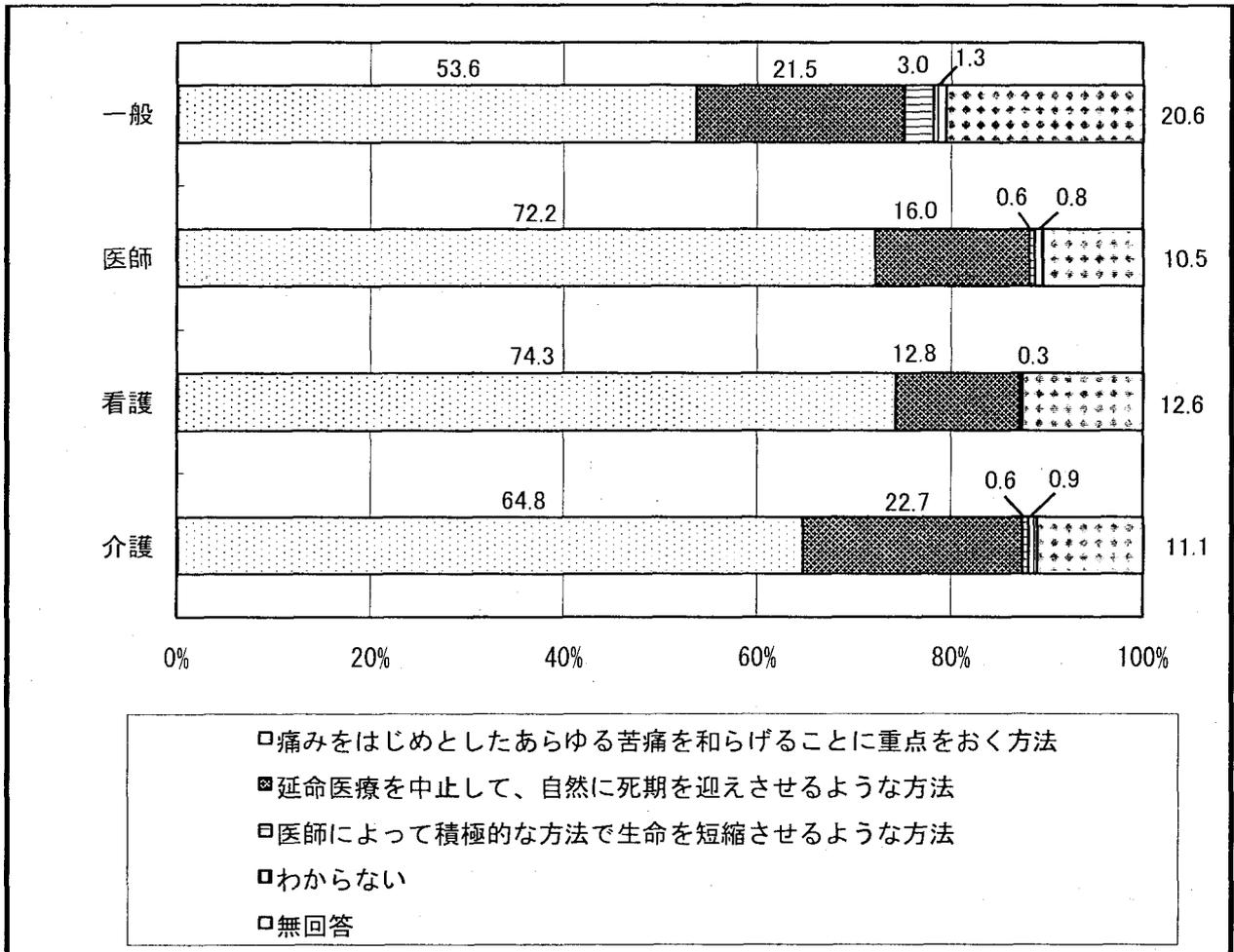


図 35

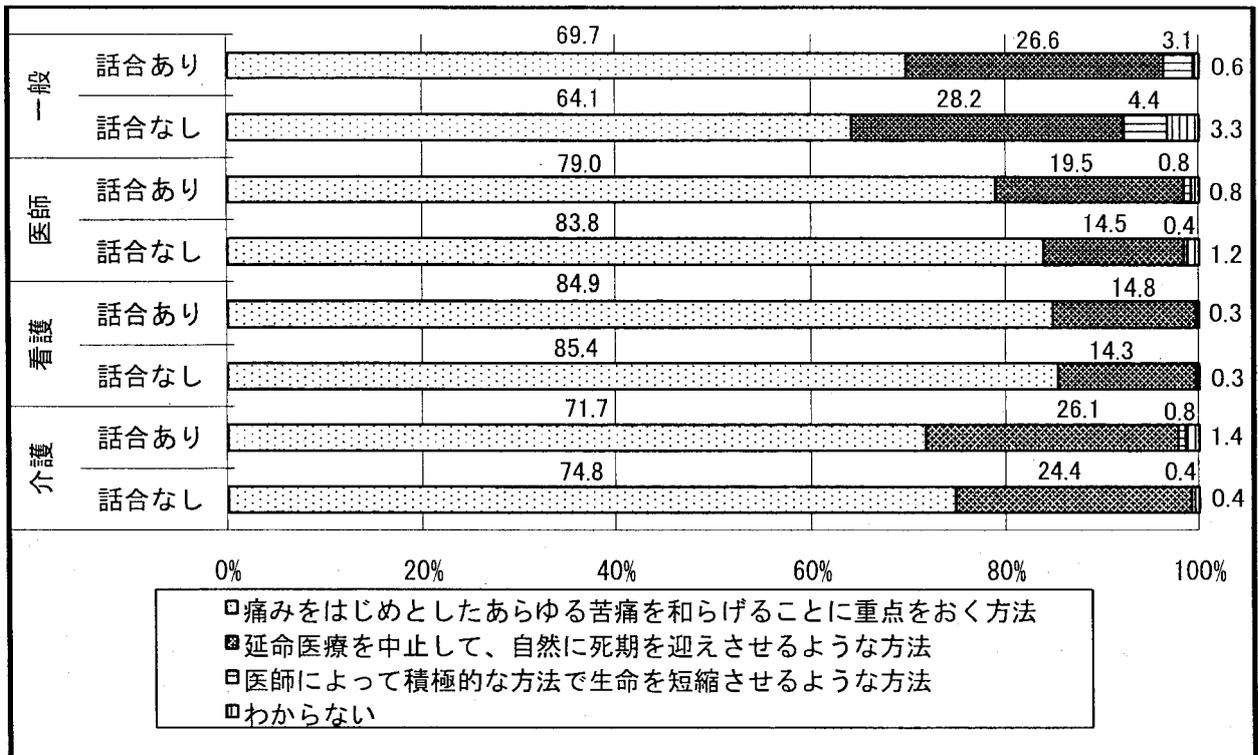


図 36

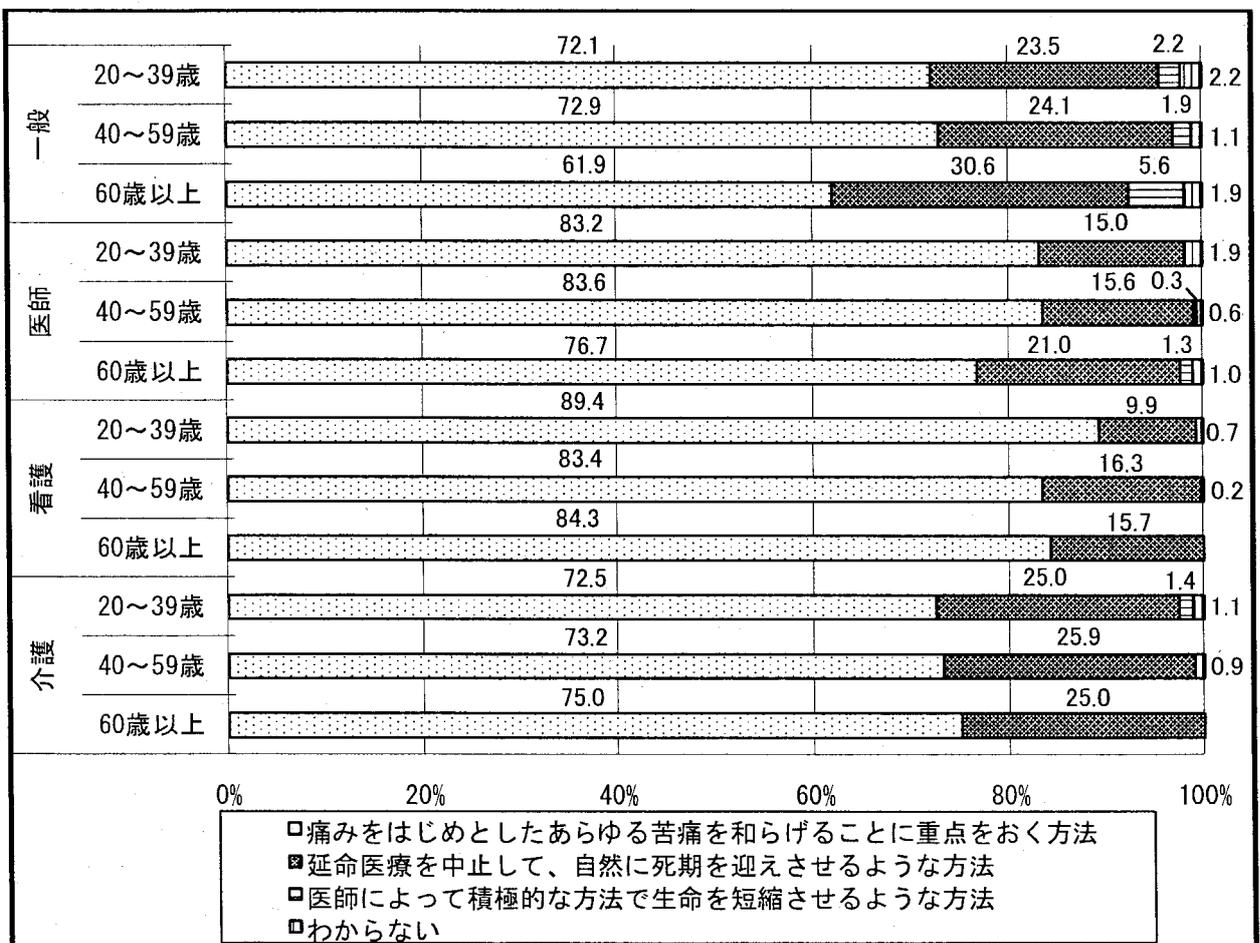


図 37